

景気循環変動の落ち込みによる債務の拡大を防ぎ、債務に依存しない財政運営について
- OECD 諸国の景気循環に着目した債務と経済成長の関係についての実証分析 -

入江 政昭

概要

日本の財政は、2007年のリーマンショック、2011年の東日本大震災に加え本年度のコロナ禍による景気の急激な落ち込みにより、GDP比債務残高の水準は200%以上からさらなる悪化が予測されている。

このような状況を踏まえ、本研究では、入江(2020)の報告をもとに、景気循環による債務の拡大および成長の抑制に焦点を合わせ、日本、OECD諸国のパネルデータ(1980~2020)を構築し、これまで日本、OECDでの成長に債務がどのように影響してきたか、表、グラフによる時系列的動態観測を行い、またコロナ禍によりどのように変化するかの検証を行い、今後の公的財務管理の方向性に資するものである。

分析の結果、日本、OECD諸国共に、景気循環の落ち込みが特に大きい時に債務の拡大が集中しており、また、債務が景気循環変動の落ち込み以上に膨らんでいることが分かった。さらに、成長及び財政の安定性の両立を図るため、公共債務の管理にGDP債務残高増加率(前年比)の指標の重要性が示された。

キーワード：景気循環、GDP債務残高増加率(前年比)、GDP比債務残高、GDP成長率、
JEL Classification: H63、H71